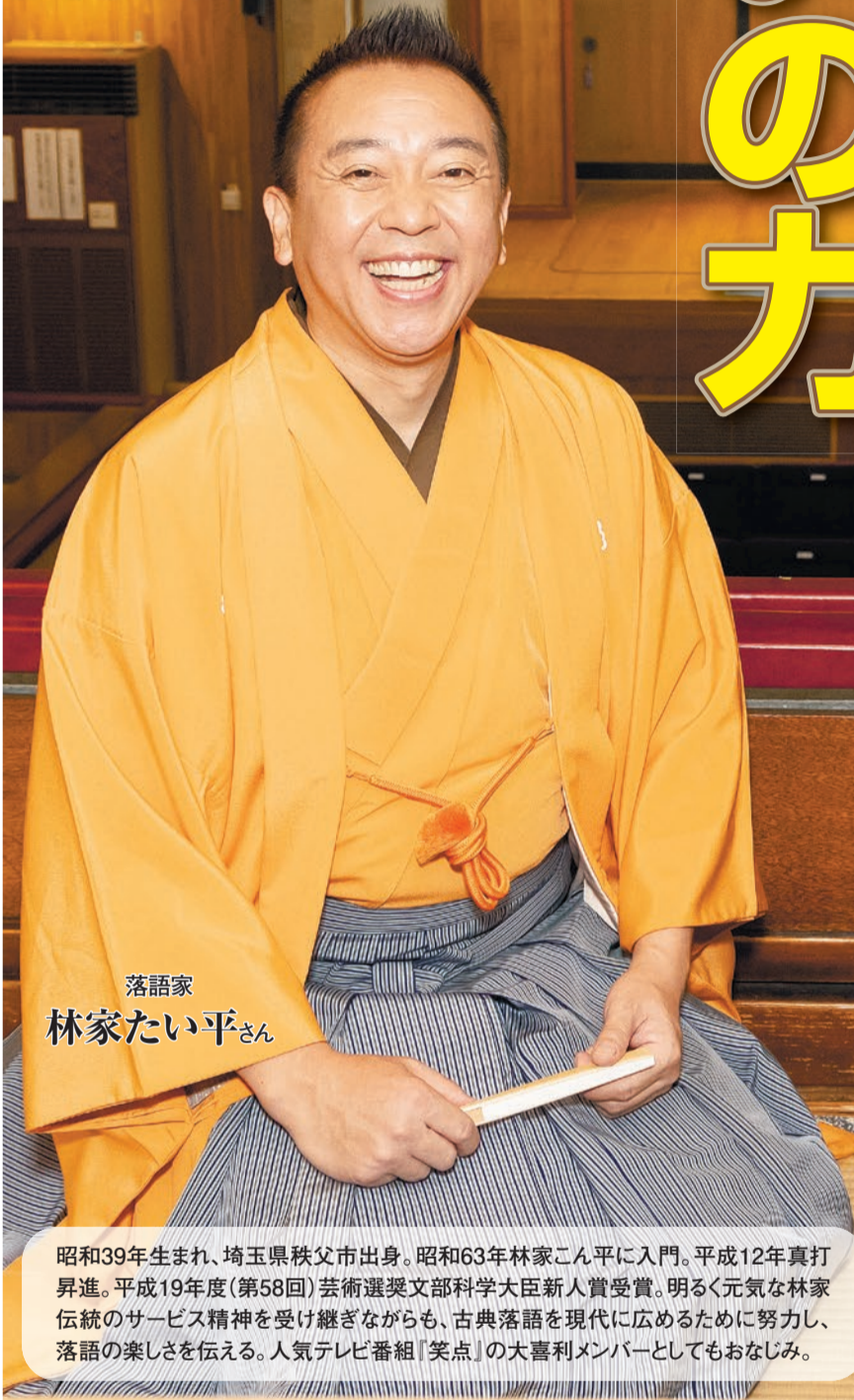


人もまちなも 明るくする 笑いの力



落語家
林家たい平さん

新宿区長
吉住 健一

昭和39年生まれ、埼玉県秩父市出身。昭和63年林家こん平に入門。平成12年真打昇進。平成19年度(第58回)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。明るく元気な林家伝統のサービス精神を受け継ぎながらも、古典落語を現代に広めるために努力し、落語の楽しさを伝える。人気テレビ番組「笑点」の大喜利メンバーとしてもおなじみ。

撮影場所:新宿末廣亭

あけまして
おめでとう
ございます



新宿区長
吉住 健一

区民の皆さまには、穏やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年が、皆さまにとって幸多き年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

今年も寅年ですが、寅は、「変革」の象徴と言われます。

また、志を同じくするものが助け合い、物事を進める意味があります。新宿のまちなちの人々が、力を合わせて、コロナ禍から日常を取り戻す年にしてまいりましょう。

困難な時代を如何に過ごすか

新宿区名誉区民の三遊亭金翁(92)さんは現役で活動されていますが、芸歴は戦中からで80年を超える落語界最古参の噺家さんです。東京大空襲に遭遇して命拾いをした経験もある一方で、戦争中は腹話術で学童疎開への慰問に回りながら、芸歴を重ねたそうです。近年は膝を痛くしたり、病気で臥せったりしたときもありましたが、昨年10月30日には高座に上がられました。日ごろは「早口言葉」のトレーニングもされているそうですが、落語についても「一生、勉強ですよ。」とインタビューに答えておられます。*困難に見舞われても、前向きに歩まれている金翁師匠のような生き方に憧れの気持ちを持ちます。

日常を取り戻す

自粛している活動を、すぐにもとに戻すのは難しいと思いますが、感染状況を見極めながら、前に進むことが大切です。区は、これまでに蓄積してきたコロナ対応の経験をもとに、区民の皆様のような活動が継続できるように、取り組んでいます。未だ新型コロナウイルスへの警戒が必要になりますが、どのような状況にあっても、日々の生活の中に自分なりの喜びや楽しみを見つけて、明るく過ごしていただければ幸いです。

今年も現場・現実を重視しながら、人々が日常を取り戻して、まち全体が元気になれるよう、地域の皆さんとともに取り組んでまいります。

本年も、区政にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*参考: 読売新聞オンライン「長井好弘's eye」

*本紙は新聞折り込みでお届けしています。主な区立施設・駅・スーパー・新聞販売店などにも置いています。新聞を購読していない方には配達します。